

土壌改良で、作土を深くしよう

圃場巡回時、野菜の生育が順調な圃場は、共通点があると感じます。それは作土が深く、土が柔らかい、根張りも非常に良いことです。これから始まる秋野菜の土壌改良は、作土が深い土を目指した土壌改良が重要です。

1. 作土よる根張りの違い

作土が深くなることで、写真のように根量が増加します。これにより、定植後から養水分の吸収が増加して、初期生育を促進させることができます。また広範囲に根量を確保できることで、追肥効果が高まり、成り疲れしにくい樹勢に仕上げることができます。



写真1 作土の違いによる根張り (弊社試験)

2. 作土を深くする土壌改良

作土が浅い土は、土壌の有機物、腐植含量が低く、単粒構造になりやすい傾向です。この改善には、良質な有機物と多種類の微生物を含むタキアーゼ・Sの施用が効果的です。製造時に完熟化させているため、施用後のガス害発生などが、ほとんどなく、増殖した微生物が団粒構造を発達させます。

同時に、腐植酸資材ネガアップと併用することで、微生物活性がさらに高まり、作土の深い土に仕上げることができます。

3. 施用量

タキアーゼ・S	15～20袋	作付け20～30日前に施用
ネガアップ	3～5袋	

【公式 YouTube チャンネル(肥料の寺子屋)】 チャンネル登録をお願いします。

ホームページ <https://www.takichem.co.jp/> メールアドレス aguri@takichem.co.jp

